



①松谷光徳寺

永延2年（988年）、延暦寺の僧法円法師が来訪、円融法皇の勅願により一宇を建立し、東広山照曜峰寺と称しました。しかし、その後、1113年南都の僧兵によって焼きはられました。安貞2年（1228年）近江の園城寺（三井寺）の僧俊円が雁多尾畑に来て照曜峰寺を再興しました。この年、天皇の宣旨を以って、大県郡の山中において300町歩の地を寄付され東広山照曜峰寺を改めて照曜山光徳寺の勅号を賜り、堂を雁林堂といたしました。俊円はさらに親鸞の念仏門に入り松谷仏念房信乗と称しました。これ以後当寺は真宗の道場となりました。現在の本堂は、明和8年（1771年）の建立で山門は宝暦年間（1750年代）ごろのものです。

かなやまひこじんじゃ

②金山彦神社

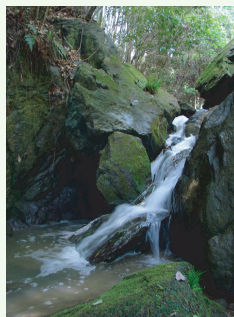
金山彦神社は延喜式内社です。祭神の金山毘古神は、嶽山の嶺に奉祀されていましたが、中世に現在地に遷座されました。

かつては山王権現、八大金剛童子社とも称されていましたが、明治8年（1875年）に金山彦神社と改められました。火の神との関係がたいへん深く、炊事、鉄工、金属業、農業、土木等の火に関わる生活や産業の安全と繁栄を願い、あつく信仰されています。

かなやまひめじんじゃ

③金山媛神社

金山媛神社は延喜式内社で、祭神は金山毘売命です。もと嶽山の嶺上にあつたのを今の地に移したと伝えられています。社名から製鉄・鍛冶生産を守護し、柏原市域の大規模な鉄器生産集団との関連が考えられます。



④どんどの滝

「どんどう不動尊」が祀られる裏手に流れる小さな溪流。いつも日陰で涼しい場所です。長い旅の途中、古人もきっとここで休憩したと思います。

いわじんじゃ

⑤石神社

祭神として欽明天皇の皇后である石姫皇后を、また石長比売と熊野権現を合わせて祀っています。鳥居の前に大阪府の天然記念物に指定されたクスがあり、幹まわり約6.2mのこの巨木は樹齢800年ともいわれています。また境内には、奈良時代の名刹であった智識寺の東塔の礎石があり、これは府の文化財に指定されています。礎石の柱穴の直径が122cmもあり、現在は神社の手洗い石として使用されています。

その昔、天平12年聖武天皇が智識寺の廬舎那仏を参拝され、これが機縁となって東大寺の大仏建立を発願されたという話は有名です。



⑥清浄泉

石神社から100mほど東方に井戸があります。この井戸の水脈は、生駒山地の地形生成時に生じた岩盤の節理に沿うもので、岩盤が地表に近くなったところで湧き出たものです。弘法大師がこの地を訪れ井戸を掘り起こし、付近の住民や農作物を干ばつから救ったとの言い伝えがあり、「大師の水」として大切に利用されています。

歴史的にも大切なものであると認められ井戸とその周辺が昭和58年に大阪府の史跡に指定されました。

※井戸水はそのまま飲まないでください

